

研究テーマ	造形活動の快さや楽しさを味わいながら、思い付いてつくる力を培う授業づくり —小学2年「えのぐじま」の実践を通して—
-------	--

筑西市立下館小学校 教諭 向田 祥子

## I 研究テーマについて

小学校学習指導要領における図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」と示されている。この「感性を働かせながら」は、今回新たに加えられた文言であり、児童の感覚や感じ方などを一層重視することが求められる。

しかし、児童の中には、どうしたら自分のイメージがつかれるのかと困ったり、また「こんなはずではなかった」とがっかりしたりする児童がいる。この時の児童は、自分のイメージを頭の中で捉えられていながら、その技能が未熟なために十分に思いを表現できずにいることが多い。

そこで、児童一人一人の発想を豊かに表現できるように、用具や表し方などについての基礎的な基本的な技能を身に付けさせること、児童がさまざまな表し方を工夫できるよう課題の提示や場の設定を工夫することを考えた。そして、造形活動の快さや楽しさを味わい、表現活動を通して「感動」「発見」「おどろき」などを体験することができれば、次の造形活動への発想力や表現力へとつながるであろうと考え、思い付いてつくる力を培うことをねらい、本テーマを設定した。

## II 研究の実際

### 1 題材名 えのぐじま

### 2 題材の目標

- 自分の感覚を大切に、形や色、ものの感じを水彩絵の具で描く快さや楽しさを味わいながら、表現しようとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- 「えのぐじま」の話を聞いて思い付いた島のイメージを深め、形や色、筆触など表現したいものを考えることができる。  
(発想や構想の能力)
- 形や色、筆の太さ、手を動かす速さや強さによる筆触の違いを生かし、「えのぐじま」の描き方を工夫することができる。  
(創造的な技能)
- 表現の仕方がそれぞれ違うことに気づき、互いの表現のよさを味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

### 3 題材について

#### (1) 児童の実態

児童は明るく元気で、活発に遊んだり話したりする児童が多い。また絵を描いたり、ものをつくったりすることが好きで、休み時間にお絵かきや粘土、折り紙などを好んでする様子も見られた。

実態調査 (平成28年5月16日実施 2年4組28人)

- 1 図工の時間は、好きですか？
  - ・はい…24人      ・いいえ…0人      ・どちらでもない…4人
- 2 図工の時間では、どのようなときに楽しいと感じますか？
  - ・作品づくりや活動をしているとき・・・20人
  - ・形や色がうまくできたとき・・・7人

	・構想を考えているとき・・・・・・・・・・1人
3	図工の時間では、何をやってみたいですか？（複数回答）
	・粘土…21人　　・工作…17人　　・絵の具…16人　　・クレヨン…11人
4	どのような絵を描くのが好きですか？（複数回答）
	・想像画…18人　　・模様…17人　　・人物動物画…12人

実態調査の結果から、図工の時間は好きと答えた児童が多く、表現そのものを楽しんでいることが分かった。また半数以上の児童が絵の具にも関心が高く、想像画や模様を描くことへの意欲が高いこともうかがえた。児童は第2学年で、絵画「春をみつけたよ」「遠足の思い出」と工作「くつつきマスコット」の3つの題材に取り組んだ。工作では、自分のつくりたいもののイメージに合わせて材料を選び、造形活動に取り組むことができた。軽量粘土は扱いやすく、試行錯誤して何度も作り直すことができ、イメージに近いものをつくることができた。絵画では、使い慣れたクレヨンを用い、楽しかった様子や自分の思いを描いていた。しかし、背景には絵の具を使ったため、絵の具と水の量や、筆の使い方慣れず、表現に苦勞する児童が多かった。

(2) 題材観

本題材は、自分の感覚を形や色にたとえ、絵の具をぬる快さ、気持ちよさを味わいながら、思いのままに表すことの楽しさを知らせる内容である。「あるところに不思議な島がありました。島のあちらこちらから絵の具があふれ出していて、まるで、虹のふるさとのようです。」という短い話から、自分なりに想像を広げ、絵の具のぬり心地を楽しみながら、形や色、筆触の違いを生かして「えのぐじま」の表現を工夫することができる。

(3) 指導観

本題材では、イメージしたものを児童が自分なりに表現できるよう、絵の具を使ってどのような表現ができるか、線や点をかいてみる時間を確保してから「えのぐじま」に取り組む。第2次では、「えのぐじま」を上空から見たり、側面から見たり、島に上陸して見たりしている気持ちで場面を想像し、イメージが多様に現れるようにする。その想像した場面は、点・線・面や筆使い、筆運びのスピードなどの組み合わせで様々な表現ができることを伝え、心を開いて活動できるようにする。大きな画用紙に感性を働かせながら絵の具をぬる活動を通して、満足感や達成感をもたせるとともに、水彩絵の具の色の美しさや、絵の具で描く心地よさを味わえる豊かな情操を育てたい。また、完成した作品には題名をつけ、自分や友達の描いた「えのぐじま」を探検する。自分の作品のがんばった所や友達の作品のいい所を発表し合い、友達に作品を認められることにより、より自己肯定感を味わえるようにしたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の感覚を大切に、形や色、ものの感じを水彩絵の具で描く快さや楽しさを味わおうとしている。	「えのぐじま」「にじのふるさと」などの言葉から思い付いた形や色、筆触などのイメージをふくらませている。	形や色、筆触の違いを生かし、さまざまな「えのぐじま」の表現を工夫している。	互いの表現のよさを参考にしながら、さまざまな表現が生まれるよさを認め合っている。

## 5 指導と評価の計画（4時間扱い）

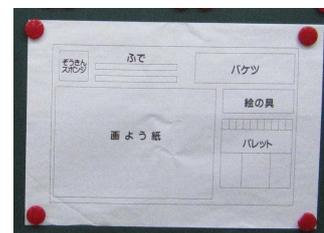
時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	水彩絵の具の使い方や表現方法を理解し、学習の見通しをもつ。	・自分の感覚を大切に、形や色、ものの感じを水彩絵の具で描く快さや楽しさを味わおうとしている。 関【観察】
第2次 ②	お話を聞いて、「えのぐじま」のイメージをふくらませ、表現する。	・「えのぐじま」や「にじのふるさと」などの言葉から思い付いた形や色、筆触などのイメージをふくらませている。 想【観察・作品】
	絵の具をぬる快さや気持ちよさを味わいながら、思いのままに表現する。	・形や色、筆触の違いを生かし、さまざまな「えのぐじま」の表現を工夫している。 創【観察・作品】
第3次 ①	友達と作品を見せ合い、違いやよさに気づき、互いに認め合う。	・互いの表現のよさを参考にしながら、さまざまな表現が生まれるよさを認め合っている。 鑑【発表・ワークシート】

## 6 指導の実際

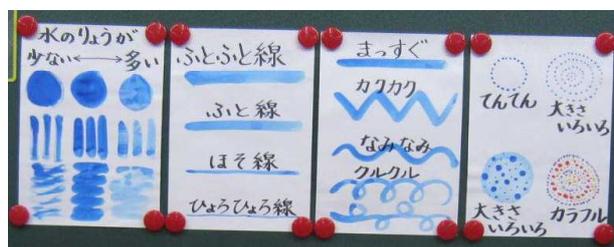
### (1) 第1次の指導

水彩絵の具について小学校学習指導要領では、第3学年及び第4学年で中心に取り扱うことを基本としているが、実際には、経験を重ねながら道具の扱いに慣れさせていくために、低学年から初歩的な形で取り上げている。本実践でも第1次で水彩絵の具の使い方や表現方法について指導し、児童が思い付いたものを表現できるように考えた。

まず、バケツやパレットなど机の上の置き方と、それぞれの用具の使い方を全体で確認した。次に、絵の具の水の量の違い、太さの違い、筆の動かし方の違い、様々な線や点などの資料を提示し説明した後、実際に画用紙に描いてみた。初めは1色でいろいろな描き方を試し、続いて他の色も使って自由に描いた。児童は絵の具を十分に試し、水彩絵の具で描く快さや楽しさを味わうことができた。



机の上の置き方



筆触の違いの提示資料

### (2) 第2次・第1時の指導

#### ○ 目標

イメージをふくらませて感じたことや表現したいことを考え、視点や表し方を工夫して表現することができる。

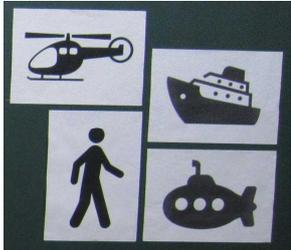
#### ○ 準備・資料

提示用学習課題、提示用「えのぐじま」のお話、提示用参考作品、

提示用筆触の違いの資料，絵の具セット，四つ切り画用紙

○ 展開

**研究テーマに迫るための指導及び留意点**

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (◎：評価)
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「えのぐじま」はどんなしまか、 そうぞうしてかいてみよう。</p> </div> <p>「あるところに、ふしぎなしまがありました。空からにじ色のほしがおちてきてぶつかり、しまのあちらこちらからえのぐがあふれ出しているしまぜんたいがきれいな色にそまっています。まるでにじのふるさとのようです。にごった色は、一つもありません。いまは人も花も、生きものもいません。」</p> <p>2 造形活動を行う。</p> <p>(1) 「えのぐじま」をどこから見ているのか想像を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空から見ると絵の具が噴き出しているのがわかるよ。</li> <li>・海から見ると噴き出た絵の具が虹のように見えるよ。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>(2) 絵の具を使って描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太い筆を使って、島を大きく描こう。</li> <li>・筆の先の方で描くと、細い線になったよ。</li> <li>・ゆっくりや速いでは、違う感じの線になっておもしろいね。</li> <li>・濃い色の絵の具に水を入れると、薄い色になるよ。</li> <li>・重ねて描くこともできるんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に本時の学習課題を提示し、「えのぐじま」への関心を高め、話につなげる。</li> <li>・話を聞いただけでは、イメージを広げていくことが難しい児童もいるため、黒板提示用のお話も用意しておく。</li> <li>・<b>児童のつぶやきや質問に応じながら、「えのぐじま」は個々の自由な発想の中から生まれることを確認する。</b></li> <li>・「絵の具があふれ出している」「虹のふるさとのよう」といった言葉を取り上げ、児童がイメージをふくらませられるようにする。</li> </ul> <p>・<b>「えのぐじま」を「ヘリコプターで見下ろしたら」「船で近づいたら」のような言葉かけをして、多様なイメージが現れるようにするとともに、自分はどの視点（上、側面、下、島の中など）から島を見ているのか考えさせる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物を選んで自分の視点を決定することにより、イメージが浮かびにくい児童への支援とする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆触の違いの資料を提示し、その組み合わせで様々な表現ができることを全体で確認してから絵を描き始める。</li> <li>・<b>大きなストロークで描けるよう、立ち上がって描いてもよいことを伝える。</b></li> <li>・色の鮮やかさを保つため、筆洗いの水やパレットが汚れたら、こまめにきれいにするようにする。</li> </ul> <p>◎感じたことや表現したいことを、視点や表現方を工夫して表現している。(観察作品)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現がなかなか進まない児童には、参考作品を指し示したり、太い筆から使うよう助言したりして自信をもって表現できる</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

<p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品のがんばった所を発表する。</li> <li>・友達の作品を見て回り、表現のよさや工夫点を見付けて発表し合う。</li> </ul> <p>4 次時の活動内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">       じぶんのそうぞうした「えのぐじま」をかんせいさせよう。     </div>	<p>ように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先に自分の作品に対する思いやがんばりを伝えることで、児童が有効に鑑賞できるようにする。</li> <li>・自分の意見を述べたり友達の発表を聞いたりして、お互いのよさや工夫点を認め合うことができるようにする。</li> <li>・友達の作品のよさから、まねしたい所や自分の作品に生かしたい所を見付け、次時の活動への意欲につなげられるようにする。</li> </ul>
--	---

(3) 第2次・第2時及び第3次の指導

本題材は図工室で行った。普段は教室で図工の学習をしている児童は、図工室の大きな机や掲示物などに目を輝かせた。また、4つ切りの画用紙に描くという嬉しさもあり、大きな机の上で大きな画用紙に、立ち上がって伸び伸びと描くことができた。普段は思うように表現できずに最後は投げやりになってしまう児童も、生き生きと筆を動かし、絵の説明をしながら思いのままに表現することができた。



立ち上がって描く児童

また、第2次の途中でミニ鑑賞の機会をとったことで、友達の表現方法のよさやアイデアに気付き、自分の造形活動に生かす児童も多く見られた。

第3次の鑑賞の場面では、題名を付けた自分の「えのぐじま」を探検するという設定で、グループで発表し合ったところ、身を乗り出して友達の発表を聞く児童も見られた。水彩絵の具で描くという造形活動自体を楽しみながら、児童はそれぞれに思い付くままに描くことができたのではないかと考える。

(4) 児童の作品



「しまから生まれたにじ」

土の中からたくさん光がとび出しました。その光が空いっぱい広がって、にじになりました。

(潜水艦に乗った視点から)



「えのぐじまのふん火」

えのぐじまがふん火したら、ほしやハートがたくさんふってきて、とてもきれいで楽しくなりました。

(船に乗った視点から)



「えのぐじまのこうえん」

みんなであそんだこうえんを思い出しながらかきました。みんなのニコニコがおがうかんで、楽しいえがかけました。

(ヘリコプターに乗った視点から)



「にじ色のほし」

てんてんもようをかいていたらきれいなうずまきになって、ほしがたくさんおちてくるみたいです。

(島に上陸した視点から)

### Ⅲ 研究の成果と課題

#### 1 成果

- ・水彩絵の具の用具の使い方や基本的な表現方法など、造形活動の基礎的基本的な技能を指導してから造形活動に取り組んだことで、児童は思い付いたものを楽しく表現でき、思い付いてつくる力を培うことに繋がったと考える。
- ・造形活動自体の中で快さや楽しさを味わい、児童は生き生きと活動できた。

#### 2 課題

- ・鑑賞の場面で、児童に観点を与えるなどの工夫をすれば、より発想が豊かになり、思い付いてつくる力の向上に繋がるであろう。
- ・研究の検証が不十分であるので、明確な検証方法が必要である。